



(写真：逆さ至仏)

平成25年度

尾瀬山の鼻
尾瀬沼

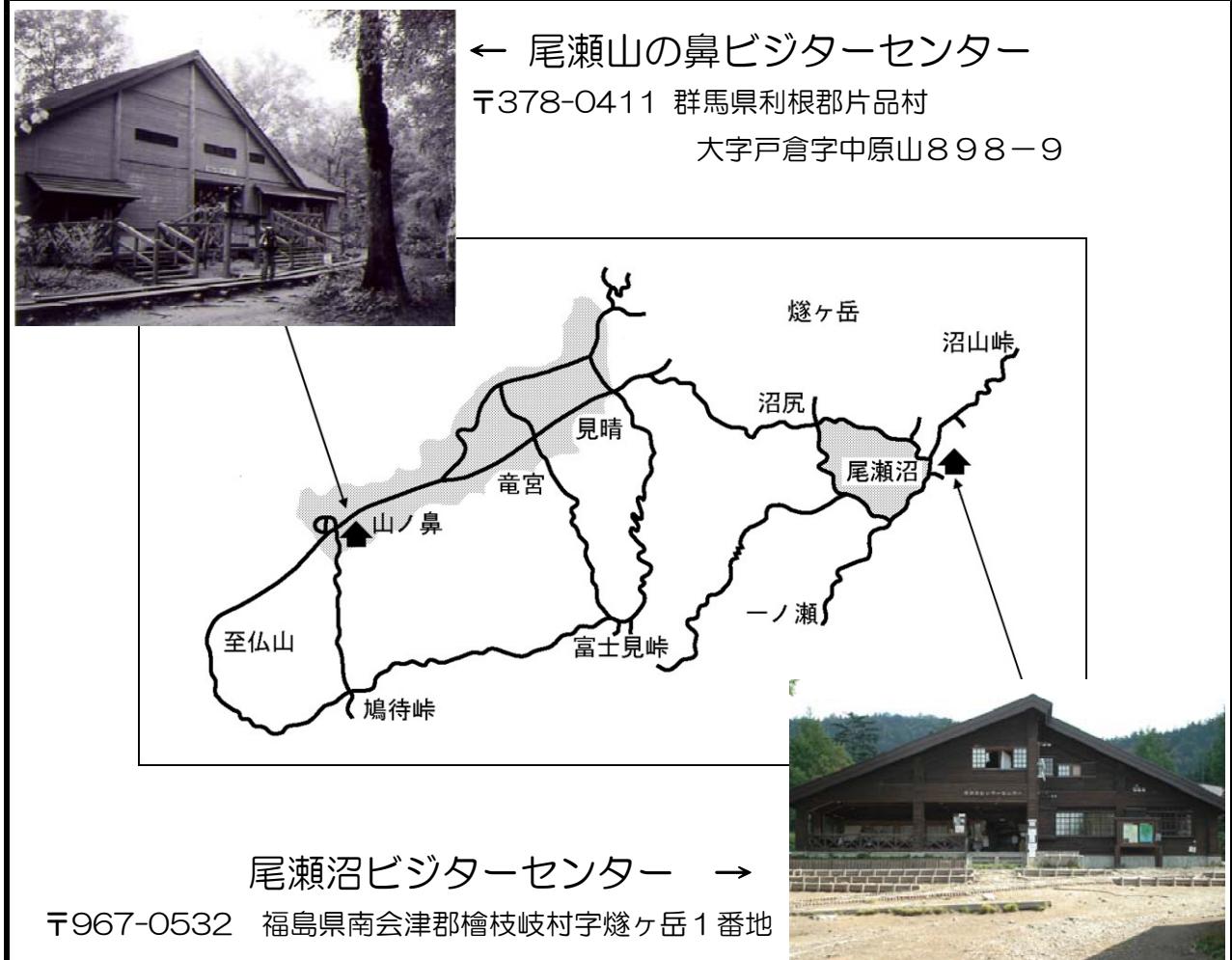
ビジャーセンター運営記録

(目 次)

ビジャーセンター位置図		卷 末 資 料	
尾瀬山の鼻ビジャーセンター運営記録		・ビジャーセンター傷病者対応事例	… 20
… 1		・尾瀬のできごとをふりかえる	… 22
コラム「尾瀬ボランティア」	… 10	コラム「一般の方から寄せられた声」	… 25
尾瀬沼ビジャーセンター運営記録	… 11	平成25年シーズンの尾瀬トピックス	… 26
コラム「尾瀬自然解説ガイド」	… 19	尾瀬保護財団の沿革と概要	… 27
		ビジャーセンターの自然体験プログラム	

公益財団法人 尾瀬保護財団

ビジャーセンター位置図



ビジャーセンターまでの交通案内

尾瀬山の鼻ビジャーセンターまでは・・・

- ・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約60分。
- ・鳩待峠まではふもとの戸倉から
乗合バス・タクシーで約25分

尾瀬沼ビジャーセンターまでは・・・

- ・福島県檜枝岐村の沼山峠休憩所から徒歩で約60分
- ・沼山峠まではふもとの御池から
乗合バスで約20分



平成25年度 尾瀬山の鼻ビジャーセンター運営記録

I ビジャーセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジャーセンターの管理運営を平成8年度から受託しています。

1 運営期間

(1)職員駐在：平成25年 5月 1日～ 平成25年11月13日 (197日間)

(2)開所期間：平成25年 5月13日～ 平成25年10月27日 (168日間)

(3)休館日：なし

※5月1日～5月12日は仮オープンです。

2 取扱時間

(1)施設開館 7:30～18:00

(2)窓口案内 7:30～16:00

※開館時間は、入山者の状況に応じて弾力的に運用しています。

3 入館者数

121,245人（平成24年度は、135,135人、前年度比 89.7%）

4 職員構成

(1) 人数9人 ※うち2人（＊）は群馬県職員

(2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
所長	笛原宗利	全体総括
*主任	宝珠山恭子	管理運営、自然解説（駐在期間5月から6月）
*主任	高橋あかね	管理運営、自然解説（駐在期間9月から10月）
嘱託	大泉和寛	統括補助、環境教育、自然解説、施設管理
管理員	岸畑亮介	歩道等巡視、安全対策、施設管理、窓口対応
管理員	森山暢希	自然解説、窓口対応、施設管理、情報収集展示
管理員	櫻井秀樹	クマ担当、自然解説、窓口対応、施設管理
管理員	萩原 舞	情報収集展示、事務管理、窓口対応、自然解説
管理員	渡辺早紀	事務管理、窓口対応、施設管理、自然解説

II 自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然との触れ合いを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、ビジャーセンター内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 平成25年度 自然解説活動のまとめ*

区分	自然観察会	スライドショー	団体レクチャー	環境学習
参加者数(人)	439(89.6%)	1,527(89.1%)	582(103.2%)	426(92.6%)
実施回数(回)	45(43)	50(48)	16(15)	88(97)

(注) 1 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実績回数

2 環境学習は平成21年度から申込を受けて行うよう実施方法を変更

1 自然観察会（写真 1）

週末や繁忙時期（ミズバショウ期、ニッコウキスゲ期、紅葉期）を中心に、山ノ鼻研究見本園を会場として実施しました。

- (1) 実施場所：山ノ鼻植物研究見本園
- (2) 実施時間：7:15～8:00
- (3) 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

2 スライドショー（写真 2）

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、スライドのスタンダード版等を活用し、季節写真や図表等を用いて、担当者の解説と合わせて鑑賞してもらいました。

- (1) 実施場所：尾瀬山の鼻ビジターセンター内のレクチャールーム室
- (2) 実施時間：19:00～19:40
- (3) 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

3 環境学習ミニガイドツアー

昨年に引き続き、ビジターセンター周辺での解説者（ガイド）付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー（環境学習ミニガイドツアー）を行いました。

施設の見学ツアーについては、山ノ鼻地区の公衆トイレをメインに排水処理のしくみや汚泥処理作業、また、環境を守るために多くの費用がかかることなど、環境保護について説明しています。

- (1) 実施日：5月下旬～10月中旬までの毎日
- (2) 実施場所：ビジターセンター周辺の県有施設、研究見本園、及びその周辺
- (3) 対象者：家族連れ等の少人数のグループ及び学校等の教育旅行団体
- (4) 実施時間：1行程あたり1時間以内
- (5) 担当者：環境学習指導員等

4 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、保護の取り組みと、自然への理解を深めていただきました。

5 館内解説

不定期で館内展示物の利用方法を含めた解説を職員により実施しました。

6 展示

- (1) 常設展示
 - ① タッチパネル方式による尾瀬情報の検索

- ②植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
- ③気象情報（館内や正面掲示板に表示）
- ④デジタルカメラ画像により代表的な植物や、各地の様子の展示
- ⑤時節ごとの観察ポイントを紹介した写真やイラスト
- ⑥尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示（鹿、タヌキ、キツネ、テン等）
- ⑦バス・電車などの公共交通機関の情報提供や相談受付
- ⑧ビジターセンター協力者から提供された写真や絵画、図書等の展示
- ⑨蛇紋岩の展示
- ⑩オコジョ、ヤマネコーナー（写真、目撃情報の展示）
- ⑪写真展示コーナーの設置（野鳥、植物）
- ⑫樹木（木片）の展示
- ⑬情報発信ブログの展示
- ⑭ツキノワグマ対策の情報、剥製の展示
- ⑮季節の昆虫（写真）と解説展示
- ⑯ジオラマ、レリーフマップ、情報展示パネルを設置
- ⑰尾瀬に生育する植物・樹木の実・種子の実物展示
- ⑱現地に駐在する職員ならではの撮影した写真を投票形式で展示

7 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山及びアヤメ平の自然の状況を調査しました。その情報は自然情報として尾瀬内の各山小屋、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。また、「今朝の尾瀬山ノ鼻」、「今日の尾瀬」を毎日、職員がブログでの情報発信を行いました。

本年度は、放射線量の測定をビジターセンター前では週一回（毎週月曜日）、牛首分岐等の尾瀬内3ヶ所では巡回に合わせて実施し、その結果を財団ホームページに掲載しました。

III その他の公園施設等の維持管理（写真 3）

尾瀬保護財団では、山の鼻ビジターセンターの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の木道を、平成8年度から管理しており、平成12年度からは、尾瀬利用者数の計測を行う登山者カウンター（環境省所管）の管理を行っています。

平成8-11年度	平成12-25年度
尾瀬山の鼻ビジターセンター	尾瀬山の鼻ビジターセンター
山の鼻公衆トイレ	山の鼻公衆トイレ
竜宮公衆トイレ	竜宮公衆トイレ
木道・橋	木道・橋 登山者カウンター（環境省所管）

1 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

(1) 供用期間

平成25年4月26日～平成25年11月11日（200日間）

(2)利用者数

285,325人（男性146,357人+女性138,968人）

(参考) 平成24年度：199,788人（男性 71,859人	女性127,929人）
平成23年度：224,447人（男性116,620人	女性107,827人）
平成22年度：265,338人（男性138,202人	女性127,136人）
平成21年度：259,306人（男性136,159人	女性123,147人）
平成20年度：256,834人（男性131,629人	女性125,205人）

(3)維持管理の実際

①清掃

1日1回の定時清掃のほか、随時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

②点検

数回のペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

③合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、絶えず異臭や異状の有無を把握するように努めました。

2 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。ビジャーセンター職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

3 登山者カウンター

今年度は尾瀬山の鼻ビジャーセンターでは、至仏山（研究見本園側）のカウンターを担当しました。

(1)設置・撤去

山ノ鼻（1ヶ所）の設置および撤去を行いました。

(2)日常点検

上記カウンターについて、毎週、動作点検やデータ回収を行いました。

(3)データの集計、報告

IV 植生復元等の事業の実施

1 荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成16～18年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

(1)実施場所：横田代 標高約1880m付近（片品村大字戸倉字中原山898-10）

(2)実施回数：巡回時随時

(3)実施内容：平成18年度に設置した観察区（5区）についての写真撮影

2 至仏山保全対策の各種取り組み（写真 4）

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としました。山の鼻ビジャーセンターではマスコミ関係への周知、各登山口への注意看板の設置、各山小屋等へのチラシの配付を行いました。また、東面登山道の踏み込み防止柵の設置・撤去について群馬県から受託し、尾瀬ボランティアの協力の下、作業を実施しました。

3 至仏山気象観測（写真 5）

至仏山保全対策の実効性や評価に資するため、至仏山の気象に関する基礎資料を整備することを目的に、至仏山8箇所に9基の気象観測装置を設置し、温度・雨量の計測を行いました。

V 巡回活動の実施

歩道の安全確保、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・指導、美化清掃等を目的に、尾瀬沼ビジャーセンター職員と分担し実施しました。

1 巡回のエリアと頻度

- ①竜宮方面 : 1回／週
- ②見晴方面 : 1回／週
- ③赤田代方面 : 1回／週 程度
- ④三条ノ滝方面 : 1回／月
- ⑤至仏山方面 : 2回／月
- ⑥アヤメ平方面 : 2回／月
- ⑦長沢、見晴方面 : 2回／月

VI その他

1 収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による収入金を集計・管理しました。

2 開所式の実施（写真 6）

本年度の尾瀬山の鼻ビジャーセンター開所式を、平成25年5月13日、尾瀬関係者や山小屋関係者、登山者（約40名）の参加により開催しました。今回は、山の鼻ビジャーセンター職員によるスライド上映などを行いました。

3 尾瀬ボランティアの活動支援

入山口啓発活動やありがとう尾瀬清掃活動のコーディネート及び、現地窓口としてボランティア活動を支援しました。

（尾瀬ボランティアについては、P10のコラムを参照してください）

4 傷病事故の対応

尾瀬山の鼻ビジターセンターで扱った今年度の傷病事故件数は、77件（平成24年度は63件）ありました。ビジターセンター窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として担架搬送に協力した件数が含まれます。

※18年度（9月中旬）よりAED（体外式自動除細動器）をビジターセンターに設置。

24年度 尾瀬ヶ原地区（群馬県側）救助体制の流れを整理しました（救急連絡系統図、対応等作成）。

（巻末資料1「傷病者対応事例」P. 20 もあわせてご覧ください）

5 ツキノワグマ対策

ツキノワグマ対策員に任命された職員がツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策を行いました。ビジターセンター職員は目撃情報収集・普及啓発・刈払い作業等に協力した他、巡視や追い払いを行いました。

目撃件数は平成18年度（2006年度）の目撃件数の半分程度となりました。例年と同様に8月の目撃件数は多いですが、今シーズンは6月の目撃件数が多いことが特徴でした。

※両ビジターセンター、事務局に寄せられた目撃件数は63件（平成24年度81件）

6 ゴミの計量及び域外搬出

群馬県のゴミ処理方針に基づき、ビジターセンターから発生したゴミは尾瀬地域から、域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は527.8kg（前年度490.7kg）でした。

7 定時気象観測

5月10日～11月1日までの毎日、9時と15時に目視観測を行いました。また、気象観測機器を山ノ鼻地区に設置して気温・降雨量などの観測を行いました。

8 ニホンジカ対策（写真 7）

深刻化するニホンジカによる食害被害を把握するため、研究見本園などの攪乱地を調査しました。また、群馬県により設置されたシカ防護柵、自動撮影装置を定期的に巡視・点検しました。



(写真 1)
自然観察会
週末や繁忙時期を中心に、
山ノ鼻研究見本園を会場と
して実施。
時間：朝 7 時 15 分
～8 時



(写真 2)
団体レクチャー
事前に依頼されたグループ
を対象に目的に応じたスラ
イドショーや自然観察会を
実施。
時間：各 40～60 分程度



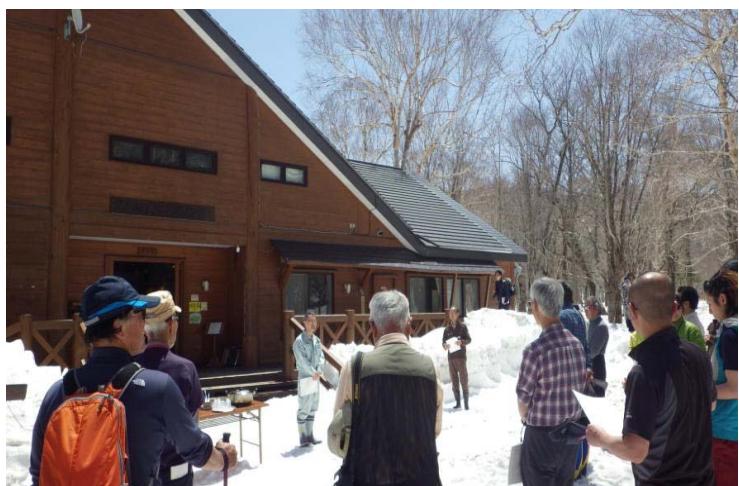
(写真 3)
施設等の維持管理
写真は木道補修の様子。
簡易に行える補修を実施。



(写真 4)
保護柵設置
踏み込み防止のために設置。
至仏山東面登山道、笠ヶ岳
の一部で実施



(写真 5)
至仏山気象観測
至仏山保全対策の実効性や
評価に資するため、至仏山
8箇所に9基の気象観測装
置を設置し、温度・雨量の
計測を行う。



(写真 6)
開所式
5月13日、財団関係者や
山小屋関係者、登山者等の
参加により開催。

(写真 7)

シカ防止柵巡視点検作業等
自動撮影装置点検の様子。



コラム 尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー ～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、全国から311人が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクター的な活動と、インタープリター的な活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

(プロテクター的活動)

入山口(鳩待峠、沼山峠、大清水等)での啓発活動
入山口周辺や尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺等での美化巡回
至仏山東面登山道整備

(インタープリター的活動)

お話しボランティア活動(定点解説)
ビジターセンター支援ボランティア活動

現在の登録状況

311人(平成26年2月28日現在)

内訳：21都府県(群馬県87人、東京都47人、埼玉県42人、千葉県・神奈川県59人他)

平均年齢 64.5歳(最年長84歳、最年少30歳)

各年度ごとの取り組み

(括弧内は参加のべ人数)

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
登録者数 (内容現在日)	582人 (9.2.23)	508人 (10.2.16)	558人 (11.2.26)	574人 (11.12.31)	500人 (13.2.1)	511人 (14.1.11)	514人 (15.1.21)	373人 (16.1.21)	384人 (17.1.20)
入山口啓発活動	44日(524)	30日(625)	36日(635)	36日(538)	32日(508)	34日(371)	33日(312)	29日(311)	33日(294)
スポット解説			3日(24)	10日(83)	15日(112)	15日(99)	16日(85)	15日(88)	19日(75)
移入植物除去			2日(31)	2日(29)	2日(29)	2日(14)	2日(9)	2日(11)	
植生復元*11				22人	11人	16人	9人	13人	13人
その他	*1	*2	*3、4	*5、6	*7、8	*9			*10

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
登録者数	360人 (18.1.1)	367人 (19.1.31)	348人 (20.1.31)	363人 (21.1.31)	355人 (22.1.31)	365人 (23.1.31)	340人 (24.1.31)	347人 (25.1.31)	311人 (25.3.28)
入山口啓発活動	27日(291)	27日(249)	25日(177)	29日(153)	45日(146)	45日(114)	44日(135)	48日(126)	40日(98)
スポット解説	19日(73)	19日(63)	19日(44)	42日(43)	28日(56)	33日(58)	20日(34)	25日(35)	27日(32)
移入植物除去									
植生復元*11	12人	16人	13人			3人	5人	5人	
その他			*12						

*1 尾瀬クリーン大作戦(以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続)

*2 鳩待峠路上駐車防止(現在は休止)

*3 至仏山登山道整備(以後継続)

*4 沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置

*5 啓発活動従事者講習会

*6 尾瀬ボランティア帽子配布

*7 県道沼田・檜枝岐線の植生回復作業(現在は休止)

*8 お話しボランティア用の旗作成

*9 鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」

*10 各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備

*11 15年度までは至仏山、16~18年度は横田代、19年度は燧ヶ岳、22~24年度は至仏山で実施

*12 ビジターセンター支援ボランティア活動開始

～ 尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします ～

平成25年度 尾瀬沼ビジターセンター運営記録

I 尾瀬沼ビジターセンター

環境省の所管施設である尾瀬沼ビジターセンターの管理運営業務を平成8年度から当財団で受託し、平成25年度も当該業務を受託し運営を行いました。

1 運営期間

- (1)職員駐在：平成25年 5月13日～ 平成25年11月 2日 (174日間)
- (2)開所期間：平成25年 5月23日～ 平成25年10月31日 (162日間)
- (3)休館日：なし

2 取扱時間

- (1)施設開館：7:00～16:00
- (2)窓口案内：7:00～16:00

3 入館者数 56,741人（平成24年度 55,037人、前年度比 103.1%）

4 職員（管理員）構成

- (1) 人数 12人（別事業との兼務を含んだ人数）
- (2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
責任者	目崎 岳郎	全体総括
副責任者	大塚 雄太	総括補助、消防・災害対応、団体レクチャー対応、移動式ベンチ運用、企画プログラム（植生復元）
責任者代理	田村 尚之	総括代理、企画プログラム
責任者代理	山本 勉	総括代理
責任者代理	西嶋 弘満	総括代理、企画プログラム
責任者代理	南雲 一哉	総括代理
管理員	布施 秀雄	施設管理、踏み込み防止柵管理
管理員	阪路 善彦	自然情報管理、情報発信管理、傷病対応
管理員	山崎 悠登	自然観察会管理・企画プログラム、ニホンジカ対策
管理員	川上 藍	館内展示管理・企画プログラム
管理員	高堀 かな	スライドショー管理
管理員	渡邊 章男	消防・災害対応、踏み込み防止柵管理

II 自然解説事業等

利用者に尾瀬のふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的とし、VC周辺とVC館内の展示室、レクチャールーム室及び掲示板等を利用し、自然解説や利用案内等を実施しました。

表 平成25年度 尾瀬沼ビジターセンター 自然解説活動のまとめ*

区分	自然観察会	スライドショー	ビデオ上映	団体レクチチャー	ミニツアー
参加人数	313(100.6%)	1988(117.4%)	3307(103.2%)	856(139.2%)	185(-)
開催日数	38(32)	63(59)	446(409)	14(13)	97(0)

* : 表中カッコは、上段が前年度比、下段（数値）が前年度実績回数

1 スライドショー

VC周辺の山小屋やキャンプ場の宿泊者を対象に、尾瀬国立公園の自然への理解や自然保护啓蒙を図るなどのため、スライドを用いて解説を行いました。

- (1) 実施場所：VC館内レクチャールーム室
- (2) 開催日：5月24日（金）～10月19日（土）の金、土、日（週3回）
- (3) 開催時間：5～8月：19:00～40分程度
9～10月：18:30～40分程度

2 自然観察会

VC周辺の山小屋及びキャンプ場の宿泊者や早朝の入山者（公園利用者）を対象に尾瀬国立公園の自然への理解、自然保护啓蒙を自然とのふれあいの促進を図りながら、野外での解説を行いました。

- (1) 開催場所：大江湿原やVC周辺
- (2) 開催日：5月25日（土）～9月22日（日）までの週2回
- (3) 開催時間：7:15～60分程度

3 ビデオ上映

尾瀬の四季を紹介した「尾瀬国立公園の四季」（約16分）のビデオ（スライド形式）の上映を行いました。

- (1) 上映期間：5月23日（土）～10月30日（土）
- (2) 上映時間：利用者から上映依頼があった場合に随時上映を行いました。
- (3) 上映場所：レクチャールーム室

4 団体レクチナー

学校団体や非営利な活動に伴う団体に、館内でのスライドレクチナーや野外での自然観察会を行いました。

- (1) 開催時期：事前申込によります。
- (2) 開催場所：スライドレクチナーの場合には、VC館内レクチャールーム室
自然観察会の場合には、VC周辺や大江湿原

5 ミニツアー（写真1）

今年度から新たに平日の利用者を対象として、尾瀬国立公園の自然への理解及び自然保护啓蒙と自然とのふれあいの促進を図りながら、野外で解説を行いました。

- (1) 開催場所 VC周辺
- (2) 開催日 8月14日（水）～10月25日（金）
- (3) 開催時間 9：00～14：30～60分程度

6 館内展示等

既設（壁面等に固定された）展示や過年度に作成した展示物の常設展示の修正など、維持管理を行ったほか、企画立案し、新たな展示物を作成し、VC館内の展示室やレクチャールーム室に展示を行いました。

（1）常設展示

- ①食物連鎖関連当てゲーム
- ②両生類コーナー
- ③魚類コーナー
- ④木道展示
- ⑤オコジョ、ヤマネ動画上映（ポータブルDVDプレーヤーにて）
- ⑥記念スタンプ
- ⑦想い出ノート
- ⑧図書を自由に閲覧できるコーナー
- ⑨その他 尾瀬情報・交通情報・クマ目撃情報・登山ルート情報等

（2）企画展示（写真2）

VC展示室の一画を企画展示スペースとして燧ヶ岳の理解を深めることや自然保護の意識を広められるような企画展示を行いました。

「知ってほしい燧ヶ岳のあれこれ」

- ① 火山とその周辺の花々
 - ・燧ヶ岳及び、その周辺の自然の豊かさに気づいてもらう。
- ② 火山とその周辺に暮らす動物
 - ・多種多様な生物の命を育んでいる燧ヶ岳の自然の豊かさに気づいて欲しい。
- ③ 尾瀬物語－あなたの知らない燧ヶ岳と尾瀬沼
 - ・「燧ヶ岳とその周辺の自然と人とのつながり」を重視し、楽しく学んでもらう。
- ④ 火山の豆知識
 - ・燧ヶ岳の特徴と重要性について知って欲しい。

III 自然情報の収集とその提供

自然情報や利用情報の収集、美化清掃等を目的に尾瀬沼周辺地域の巡回を行いました。

得られた情報は「尾瀬情報」として1枚のシートにまとめて、VCでの掲示及び財團ウェブサイトへの掲載のほか、各山小屋に直接配付を行いました。なお、今年度から新たにフェイスブックによる情報提供を行いました。また、財團事務局を経由し、関係機関や登山用品店などへ電子メールにて配信を行いました。

そのほか、利用者から提供いただいた、ツキノワグマ目撃情報を財團事務局で取りまとめ、VC掲示板に掲載しました。

1 巡視のエリアと頻度

- ①尾瀬沼 : 1回／週
- ②大江湿原（小淵沢田代を含む） : 1回／週
- ③燧ヶ岳 : 1回／月
- ④裏燧林道（渋沢・小沢平を含む） : 1回／月

- ⑤沼尻～見晴～赤田代 : 1回／月
- ⑥大清水～三平下 : 1回／月
- ⑦その他（白尾山・皿伏山・道行沢） : 適宜

IV 施設管理及びその他の業務（写真 3）

1 移動式ベンチ業務

23年度に導入された尾瀬沼集団施設地区ベンチ（移動式）28基について、シーズン中はVC前広場に設置しました。なお、VC閉館にあわせてベンチを撤去し、VC内に保管しました。

2 傷病者発生時の対応

檜枝岐村遭難対策救助隊（尾瀬沼地区本部 尾瀬沼ヒュッテ）の指示により、尾瀬沼地区周辺で発生した、傷病者の対応を行いました。

対応した件数は以下のとおりです。なお、切り傷等の窓口対応のみの事象も含まれています。

計13件（うち、救急車搬送6件、ヘリ搬送2件、AED対応0件）

※平成24年度は計22件（うち、担架搬送1件、ヘリ搬送2件、AED対応0件）

（P20 卷末資料1「傷病対応事例」をあわせて、ご覧ください）

V トイレカウンター業務

尾瀬沼第一、第二公衆トイレの利用者カウンターの管理を行いました。

1 業務内容

（1）設置及び撤去

設置日：5月21日（第一）、5月22日（第二）

撤去日：10月22日（第一）、11月1日（第二）

（2）保守管理

上記カウンターについて、週に1回動作確認等を行いました。

（3）データ回収及び集計

上記カウンターのデータ（CFカード）を回収し、集計を行い、月に1回環境省へ報告しました。

VI 踏み込み防止柵業務（写真 4）

木道や木道沿いの休憩テラスなどの周囲において、湿原等への踏み込みを防止する目的で、ロープ柵を設置し管理を行いました。

1 業務内容

（1）設置及び撤去

大江湿原、沼尻湿原、白砂湿原、小淵沢田代、浅湖湿原（西側林内入口部）において、積雪状況や利用状況を考慮し、ロープ柵の設置及び撤去を行いました。

（2）点検作業等

踏み込み状況の確認のほか、設置したロープの緩みや杭の破損状況を点検し、必要に応じて交換作業などを行いました。

VII 積雪期による危険箇所への掲示（写真 6）

残雪時期に巡視などで危険と判断した箇所について、自然保護官と協議の上、必要があれば利用者に危険箇所であることを喚起するための掲示（看板の設置）を行いました。

1 対応箇所

（1）尾瀬沼南岸ルート（三平下～沼尻）

斜面に雪がつくことで、急斜面を横断する状況となり、尾瀬沼への滑落の危険が伴うため、三平下及び沼尻に掲示を行いました。

（2）燧ヶ岳登山道

残雪期のナデッ窪登山道は危険が伴うため、登山道入口に通行禁止の掲示を行いました。

VIII 尾瀬沼VC業務配置職員が兼務したその他の主な事業など

1 環境省植生モニタリング

（1）尾瀬国立公園植生復元モニタリング（写真 5）

尾瀬国立公園における、過去に実施された植生復元作業地において、今後の植生復元作業に資する基礎的データを蓄積するとともに、復元手法の妥当性を検証し、対応の必要な事象の有無等を把握するため、植生復元作業箇所における植物の消長や植生の回復状況をモニタリングします。

2 福島県特植事業

（1）尾瀬地区植生復元調査等業務

尾瀬地区の福島県地域における植生復元事業として、雪圧により沈下した調査杭の引き起こし等の管理、外来植物及び平地性植物除去及び堀の清掃作業、尾瀬保護調査会の調査同行などを行いました。

3 檜枝岐村所管施設管理運営

（1）尾瀬ブナの森ミュージアム管理運営業務

御池ロッジ内にある当該施設において、金曜日～月曜日までの4日間、利用者への受付、案内、館内清掃などを行いました。

4 財団自主事業

（1）尾瀬ボランティア活動支援

入山口啓発活動（沼山峠口）やお話しボランティア活動等におけるコーディネートを行いました。

（2）尾瀬子どもサミット

群馬県側で開催された尾瀬子どもサミットに職員を派遣し、解説員などとして参加しました。

（3）尾瀬国立公園ツキノワグマ対策（写真 6）

ツキノワグマ対策員として、尾瀬沼ヒュッテの対策員と協力し、クマ警鐘や注意喚起を促す看板の設置などを行いました。



(写真 1)

ミニツアー

ビジターセンター周辺で自然への理解、自然保護啓蒙、自然とのふれあいの促進を図るため、野外で解説を行いました。



(写真 2)

企画展示

館内にて、新たに企画した展示物の開催



(写真 3)

移動式ベンチ

シーズン中、23年度から導入された28基のベンチを設置



(写真 4)

踏み込み防止柵の設置

踏み込みを防止するために設置

大江湿原小淵沢分岐



(写真 5)

植生モニタリング

植生調査の実施

熊沢田代・小淵沢・沼尻



(写真 6)

ツキノワグマ対策

クマ対策として、木道沿いにクマ除けの鐘と注意喚起を促す看板を設置



(写真 7)

尾瀬サミット

尾瀬沼で開催された尾瀬サミット
で観察会を実施



(写真 8)

団体レクチャー

館内でのスライドレクチャーや
野外での自然解説を実施



(写真 9)

ビジターセンター内の様子

多くのハイカーや学生な
どが利用するビジターセンター

尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。参加料は1人当たり500円～1,500円で、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。ガイド本人には、鳩待峠・御池～現地までのバス代などの一部を補う程度で、給与や報酬は支給していません。なお、尾瀬自然解説ガイドの催行はビジャーセンターが起点、終点になっています。

活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえるよう活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数（人）	尾瀬ヶ原ガード利用者数（人）	尾瀬沼ガード利用者数（人）
18	240	190	50
19	252	245	7
20	452	448	4
21	294	290	4
22	292	292（内尾瀬学校は113）	0
23	239	197（内尾瀬学校は135）	42
24	642	450（内尾瀬学校は372）	192
25	890	633（内尾瀬学校は558）	257（内環境学習は255）

信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP（インタープリテーション）研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド登録を行っています。現在26名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、2年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施するなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジャーセンターとの連携 ～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジャーセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジャーセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心で安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要なことでしょう。

～ ビジャーセンター利用者のみなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします ～

巻末資料1

平成25年度 ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジャーセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

- 転倒事故 5月29日(水)11時23分頃、山の川上川橋付近で負傷者を発見。木道で転倒し、足首を負傷。歩行困難なので、現場から名無し沢北付近まで担架搬送。その後救助隊と合流。救助隊に担架搬送を引き継ぐ。
- 転倒事故 6月3日(月)10時00分頃、牛首分岐と下ノ大堀川間で転倒し、歩行は困難なので、防災ヘリ要請。12時10分頃に搬送された。
- 転倒事故 6月7日(金)14時10分頃、鳩待峠と山ノ鼻間の木道階段にて転倒し、右足首を負傷。歩行困難なため同行していた添乗員と相談のうえ対応判断。最終的に翌日の9時15分頃に防災ヘリで搬送した。
- 転倒事故 6月21日(金)11時10分頃、山ノ鼻と鳩待峠の間で転倒し、左足捻挫あるいは骨折の疑いあり。歩行困難なので、防災ヘリ要請。13時20分頃に搬送された。
- 転倒事故 7月20日(土)12時15分頃、原の川上川付近で転倒。左足首骨折の疑いがあり、歩行困難。研究見本園に搬送後、14時頃防災ヘリで搬送される。
- 転倒事故 7月31日(水)14時30分頃、山ノ鼻公衆トイレの階段で転倒。両膝と腰を負傷。左膝は裂傷あり歩行困難。翌日の11時頃谷川警備隊が背負って搬送する。
- 転倒事故 8月9日(金)7時頃、至仏山東面登山道第一ベンチ付近で転倒。脳しんとう左目下出血のため歩行困難なので、防災ヘリ要請。9時16分頃搬送される。
- 体調不良 8月20日(土)13時15分頃、尾瀬学校ガイドより通報。山ノ鼻地区にて頭痛と嘔吐のため歩行困難な傷病者あり。一時体調が回復し、起き上がるようになるが、容体が再度悪化し担架搬送。山ノ鼻と鳩待峠間の木道階段下で消防隊員と合流。消防隊に担架搬送を引き継ぐ。
- 転倒事故 10月1日(火)10時頃、竜宮十字路にて転倒事故。左足の甲を骨折し歩行困難なので、防災ヘリ要請。13時頃搬送された。
- 転倒事故 10月29日(火)7時35分頃、竜宮小屋前にて転倒事故。左肩脱臼のため歩行困難なので、防災ヘリ要請。対応は竜宮小屋に依頼。
- 他に職員による簡易的な処置が67件ありました。

尾瀬沼ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

滑落事故 6月9日（日）13時00分頃、燧ヶ岳山頂付近で滑落し、その後自力で下山。17時頃尾瀬沼VCに来所。応急手当後、職員1名が沼山峠まで付き添い、救急車で搬送された。

転倒事故 7月14日（日）11時30分頃、ミノブチ岳ナデッ窪分岐～ナデッ窪で岩で足を滑らせて転倒し、岩に足を強打した。救助隊要請に伴い、VC職員1名が傷病者のいる燧ヶ岳のナデッ窪登山道へ登り、尾瀬沼地区の救助隊員、福島県警山岳救助隊と合流して、傷病者を途中まで担架搬送、長英新道の途中でヘリに引き渡して病院へ搬送した。

転倒事故 8月6日（火）15時00分頃、沼山峠の下り坂において足を滑らせて転倒。尾瀬沼VCから担架の貸し出し。同行者がヤナギランの丘付近から長蔵小屋まで担架搬送。翌日責任者からヘリ要請があり、ヘリで病院へ搬送された。

他は職員による簡易的な処置がありました。

巻末資料2

－平成25年度 尾瀬のできごとをふりかえる－

平成23年度は東北地方太平洋沖地震の影響により、入山者数が初めて30万人を下回りましたが、24年度以降入山者が増えています。今年度も前年度より入山者が多く、回復傾向にあります。また、今年度は7月と9月に台風の影響により木道が冠水したり、木道が流されるなどの被害がありました。

尾瀬ヶ原周辺のできごと

(尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)

5月

- 1 仮オープン
(4月26日から開設準備作業)
- 12 山岳研修(両ビジター合同)
- 13 ビジターセンター開所式
- 10 ウグイス初鳴き
- 17 カッコウ初鳴き
- 18 鳩待峠啓発活動(コーディネート)
上田代湿原が融雪により水でうまる
- 20 竜宮小屋でクマの目撃情報
- 22 イワツバメ初飛来
- 23 尾瀬山開き(御池地区)
- 24 VC支援ボランティア始まる

6月

- 1 ごみ持ち帰り運動(鳩待峠口)
- 6 背中アブリ田代にシカネット設置
- 6 背中アブリ田代にシカネット設置
- 9 ミズバショウの最盛期で混雑
- 10 チシマザクラ開花
- 12 エゾハルセミ初鳴
- 15・16 尾瀬ボランティア講座
- 15・29 轟音玉講習会(水上・片品)
- 22 至仏山東面登山道保護柵設置
尾瀬ボランティアが協力
尾瀬らしい自動車利用社会実験
: 鳩待峠(～30日 群馬県)

尾瀬沼周辺のできごと

(尾瀬沼ビジターセンター報告)

5月

- 8 救急救命研修
- 13 檜枝岐事務所打ち合せ
- 13 職員上山
(沼山峠3名、大清水5名入山)
施設管理について打合せ
- 14 開館準備(～22)
- 22 御池～沼山峠間バス運行開始
- 25 パークボランティア活動開始
- 25 朝の自然観察会開始

6月

- 1 入山口啓発活動・ゴミ持ち帰り運動
(沼山峠口)
職員4名コーディネート
- 9 入山口啓発活動(馬坂峠口)
(職員1名コーディネート)
- 9 オサバグサ祭(24日まで)
- 9 田代山 山開き
- 9 入山口啓発活動(猿倉登山口)
(職員1名コーディネート)
- 10 ボランティアハウス設置(沼山峠)
- 13 AEDバッテリー交換
- 15 轰音玉講習会(水上公民館)
- 16 スライド・観察会の研修実施
- 19・21 巡視研修実施
- 22 企画展示打合せ
- 29 轰音玉講習会(片品村役場)
- 30 ナデッ窪入山規制ロープ設置

尾瀬ヶ原周辺のできごと

(尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)

7月

- 1 第8回至仏山の山開き（鳩待峠口）
- 3 至仏山気象観測装置設置
- 4 館内展示リニューアル
- 10 笠ヶ岳登山道保護柵設置
- 13 尾瀬らしい自動車利用社会実験
：大清水（～21日 群馬県）
- 15 ニッコウキスゲ見頃（尾瀬ヶ原群落
少ない）
- 20 尾瀬ヶ原巡回清掃
- 21 白尾・皿伏コース巡回と倒木処理
- 23 大雨で尾瀬ヶ原（下ノ大堀川）木道
冠水・通行止め
- 31 尾瀬子どもサミット開催
8月2日まで（山ノ鼻地区）

8月

- 3 アヤメ平巡回清掃
- 4 尾瀬ボランティア インタープリン
ター研修（～5）
- 8 テンマ湿原に居座る子グマの追い払
い
- 13 クマ対策草刈り（見本園）
- 24 至仏山巡回清掃

9月

- 5 エゾリンドウ咲き始め
- 12 山ノ鼻地区十二山神祭
- 16 台風18号の影響で木道冠水
尾瀬ヶ原通行止め
- 17 初霜（最低気温2°C）
- 21 至仏山植生復元作業
尾瀬ボランティアが協力
- 30 草紅葉見頃（尾瀬ヶ原）

尾瀬沼周辺のできごと

(尾瀬沼ビジターセンター報告)

7月

- 1 VC前支障根除去
大江湿原夜間見回り(南会津尾瀬二
ホンジカ対策協議会)23日まで
- 5 オバボタル事前調査
- 6 会津駒ヶ岳 山開き
入山口啓発活動（滝沢登山口）
(職員1名コーディネート)
オバボタル観察会試行
- 7 燐ヶ岳山開き
- 11 ナデツ窪入山規制ロープ撤去
- 13 入山口啓発活動実施（沼山峠口）
(職員1名コーディネート)
- 27 計画停電（約1時間）
- 30 尾瀬子どもサミット開催（職員2名
派遣）8月2日まで

8月

- 3 燐ヶ岳清掃巡回
(職員1名コーディネート)
- 14 ミニツアー開始（今年度から）
- 15 バックヤード研修会
(ミニツアーに活用)
- 20 福島県尾瀬保護調査会調査
(植物調査、動物調査)22日まで
- 20 第1回消防訓練
- 24 会津駒ヶ岳巡回清掃

9月

- 2 尾瀬サミット開催（尾瀬沼地区）
(3日まで)
- 7 ありがとう尾瀬清掃
(大清水・裏燧林道)
- 13 アクティブレンジャー写真展開催
(24日まで)
- 16 台風により赤田代通行止め
燧裏林道
- 19 第2回消防訓練
- 21 入山口啓発活動（沼山峠口）
(職員1名コーディネート)
- 22 朝の自然観察会終了

尾瀬ヶ原周辺のできごと

(尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)

10月

- 16 紅葉が見頃（尾瀬ヶ原）
- 17 至仏山初冠雪
- 19 ありがとう尾瀬清掃（尾瀬ヶ原）
- 18 至仏山気象観測装置撤去
- 27 至仏山東面登山道保護柵撤去
尾瀬ボランティアが協力
- 27 山の鼻VC閉館（17時）
- 30 見晴沼尻川橋橋板撤去
- 31 山VC冬囲い
ごみ持ち帰り横断幕外し

尾瀬沼周辺のできごと

(尾瀬沼ビジターセンター報告)

10月

- 7 展示室のペンライト交換工事
- 12 パークボランティア今シーズンの活動終了
- 14 ワックス掛けのためレクチャールーム閉鎖中（15日まで）
- 16 釜ヶ堀沢冠水
各バス運行停止
- 17 VC周辺初雪
- 18 シカセンサー反応あり（1頭捕獲）
- 19 ありがとう尾瀬清掃（尾瀬沼）
燧ヶ岳初冠雪
- 24 ボランティアハウス撤去（沼山峠口）
- 27 シカ罠撤去（檜枝岐村獵友会）
- 31 ビジターセンター閉館
ビジターセンター冬囲い
館内ワックス掛け

11月

- 1 気象観測装置撤去
- 8 初降雪
- 11 尾瀬ヶ原の橋板撤去（下ノ大堀川）
- 11 山の鼻公衆トイレ閉鎖準備
- 12 受電停止作業対応・公衆トイレ閉鎖
- 13 職員下山（積雪550cm）

11月

- 1 気象観測装置撤去
野外展示板撤去
- 2 各種最終点検
職員下山

～ ビジターセンターに寄せられた声から ～

- ・オコジョとヤマネはかわいいけれど写真を増やしてほしい。ビジターセンターにグッズもおいてほしい。
- ・ミズバショウがとてもきれいなのですが、木道のおくのほうにたくさんあるミズバショウを間近でみたいとおもいました。。
- ・尾瀬の環境を守るためにトイレも100円の協力金があったりしていますが、入れない方も多いように思います。この自然を守るためにも、尾瀬に入る方に入山料のようなものを出してもらうようにしてもらったほうがいいと思います。
- ・木道がもっと広かつたらいいなあ、あとおみやげがやすいといいとおもいました。
- ・いろんなどうぶつのかわがさわれて楽しい。
- ・休憩ごとにたばこ臭くて、喫煙にしてほしい。風下に喫煙スペースを置くとかして欲しい。
- ・初めてきました。キレイでいいとこですね。ただ、装備不十分な方やマナー違反の方がいます。鳩待で「尾瀬の約束」の看板をたててはどうですか？
- ・いろいろな花の名前がわかりました。
- ・ガイドの方のストックにカバーがなくて残念です。
- ・わたしはおぜをもっときれいにしようと思いました。
- ・空気がおいしかった。
- ・鳥の声をもっとふやしてほしい。

～ ビジターセンター利用者のみなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします ～

～ 平成 25 年シーズンの尾瀬トピックス ～

- ◆ 山の鼻ビジターセンター開所式
ビジターセンター職員によるスライドレクチャーを行いました。
(5月13日)
- ◆ 尾瀬山開き・・今年は御池（福島県側）で開催
(5月23日)
- ◆ 財団では、今シーズンも、檜枝岐村から委託を受けて、週4日（金曜日～月曜日）職員1名が御池ロッジに併設しているブナの森ミュージアムで窓口業務、館内説明等を行いました。
(5月～10月)
- ◆ シカの追い払い
環境省、福島県、当財団職員等の関係各所により夜18時から翌朝5時頃にかけてシカの追い払いを実施。
(7月1日～23日)
- ◆ 台風による被害
今年度は7月と9月に雨により木道が冠水しました。尾瀬ヶ原では下ノ大堀川の木道が冠水して通行止めになり、尾瀬沼では小淵沢付近の木道が流されるなどの被害を受けました。
(7月23日、9月16日)
- ◆ 尾瀬ガイダンス（現地）の開催
尾瀬ツアーを企画している旅行会社や出版社を対象に平成8年度から実施しています。今年度は渋沢コースと、田代山コースに分かれて実施し、その後意見交換の場を設けました。
(6月26日～27日)
- ◆ 尾瀬山ノ鼻地区で尾瀬子どもサミット開催
3県（群馬、福島、新潟）の小中学生が集まり、尾瀬の自然について学び、体験しました。また、3県の子どもたちの交流やふれあいを図りました。
(7月30日～8月2日)
- ◆ 尾瀬サミット開催
昨年から再開した尾瀬サミットが今年も実施されました。今年度は新潟県奥只見湖畔で開催。前日の自然観察会を尾瀬沼地区で実施しました。財団役員をはじめ尾瀬関係者が一堂に会しました。
(9月2日～9月3日)
- ◆ 今年度の尾瀬国立公園の入山者は34万4千200人で、前年度を上回りました。

尾瀬保護財団の沿革と概要

財団の沿革

- 平成 4年 8月 4日 福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」(尾瀬沼山荘)

平成 7年 6月13日 財団設立発起人会（東京都内）

8月 3日 財団設立、第1回理事会（尾瀬沼ヒュッテ）
群馬県大友庁舎（前橋市大友町）に事務所設置

平成 8年 5月15日 尾瀬沼ビジターセンターの運営開始（環境庁から受託）

5月18日 尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始（群馬県から受託）

平成 9年 4月 1日 群馬県公社総合ビル（前橋市大渡町）に事務所移転

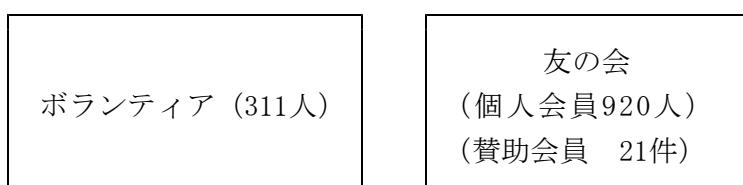
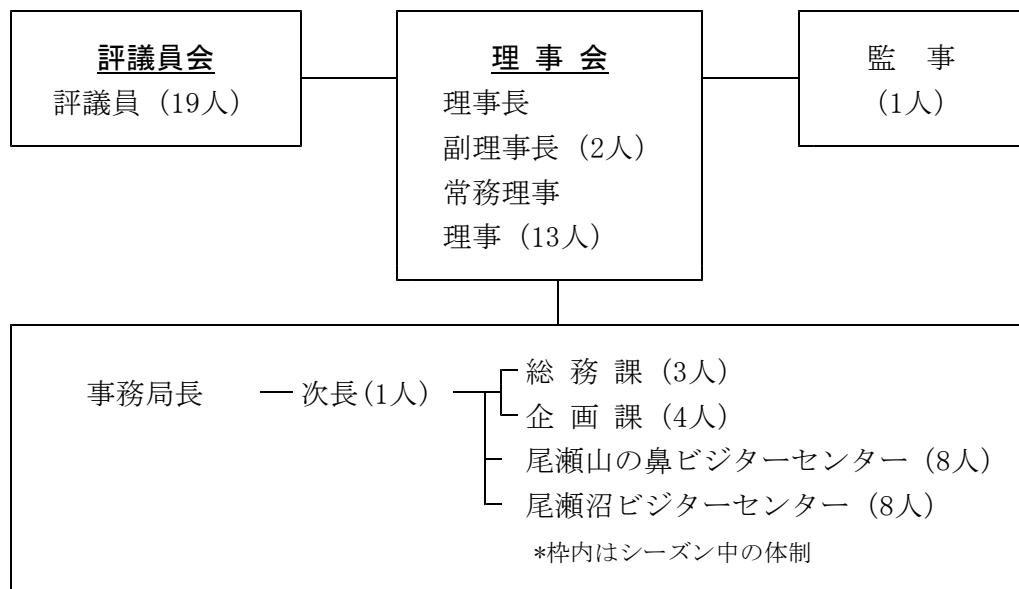
平成11年 7月13日 特定公益増進法人に認定（財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後2年毎に認定を更新）

9月 3日 群馬県庁（前橋市大手町）に事務所移転

平成25年 4月 1日 内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

財団の概要

- ・設立日 平成 7年 8月 3日
 - ・基本財産 約15億円（平成25年度末現在）
 - ・主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
 - ・組織体制



*人数は26年2月末現在

施設概要

- ・尾瀬山の鼻ビジターセンター 設置者：群馬県
鉄骨木造 2階建 延床面積344m² 平成5年築
展示室 69m² レクチャールーム 80m² 事務室 17m²
 - ・尾瀬沼ビジターセンター 設置者：環境省
鉄骨木造 2階建 延床面積493m² 昭和60年築
展示室 132m² レクチャールーム 99m² 事務・会議室 32m²

この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビズターセンターの平成25年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

☆集計方法について

ビズターセンター入館者数　公衆トイレ利用者数

- ・施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。
停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては特に補正していません。公衆トイレについては山ノ鼻のみセンサーが設置されています。

自然観察会

- ・平日の野外活動として実施した「平日朝の自然観察会」の実績を含んでいます。

その他

- ・比率(%)で示した数値は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しています。
- ・本文中に「V C」とある場合は、「ビズターセンター」と読み替えてください。

平成25年度

尾瀬山の鼻 ビズターセンター運営記録 尾瀬沼

平成26年3月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

公益財団法人 尾瀬保護財団

TEL (027)220-4431

FAX (027)220-4421

ホーメージアドレス <http://www.oze-fnd.or.jp/>
E-mail アドレス info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの 自然体験プログラム

——お問い合わせは——

公益財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁17階
TEL 027-220-4431
FAX 027-220-4421
E-mail info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前には是非立ち寄ってみてください。

※ 天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合わせください。

いつでも

窓口

スタッフが尾瀬のことにお答えします。

窓口時間 山の鼻 VC 7:30～16:00
尾瀬沼 VC 7:00～16:00

いつでも

展示

尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。

開館時間 山の鼻 VC 7:30～18:00
尾瀬沼 VC 7:00～16:00

いつでも

尾瀬情報

花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。
Check! Check! Check!

尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。
URL → <http://www.oze-fnd.or.jp/>

いつでも

ビデオ上映

尾瀬のビデオが上映されています。
急な申込みでも大丈夫！

山の鼻ビジターセンターで上映
Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」(20分)
Hi-Vision「トンボ」(18分)
Hi-Vision「クモ」(18分)
「尾瀬その成り立ちとしくみ」(16分)
「尾瀬はふるさと空を渡る生き物たち」(10分)

尾瀬沼ビジターセンターで上映
「尾瀬国立公園の四季」(16分)「尾瀬沼の四季」(13分)

*ほかにもさまざまなビデオがあります。お問い合わせ下さい。

いつでも

セルフガイド

一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。

「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」「アヤメ平」「燧裏林道」「尾瀬沼」などがあります。

日時限定

自然観察会

一緒に湿原へ出てみましょう！

周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。
朝： 7:15～8:00

※ 開催時期についてはお問い合わせください。

日時限定

スライドショー

スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る

「今日のショーはあるの？」と利用者から尋ねられる
程の定番企画です。まずは参加してみてください。

夜 19:00～19:40

※ 開催時期についてはお問い合わせください。

期間限定

企画展示

尾瀬を深く知るための特別展示です。

※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。

要予約

団体レクチャー

グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい

事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています（要予約）。

日時限定

尾瀬自然解説ガイド

実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間の
ガイドをします（コース限定、有料、要予約）。
※ 開催日についてはお問い合わせください。

日時限定

お話しボランティア

平日の休憩ベンチには個性豊かな
解説ボランティアさんがいます

※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。

この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。